

## 《参考：冬期間の労働災害発生状況》

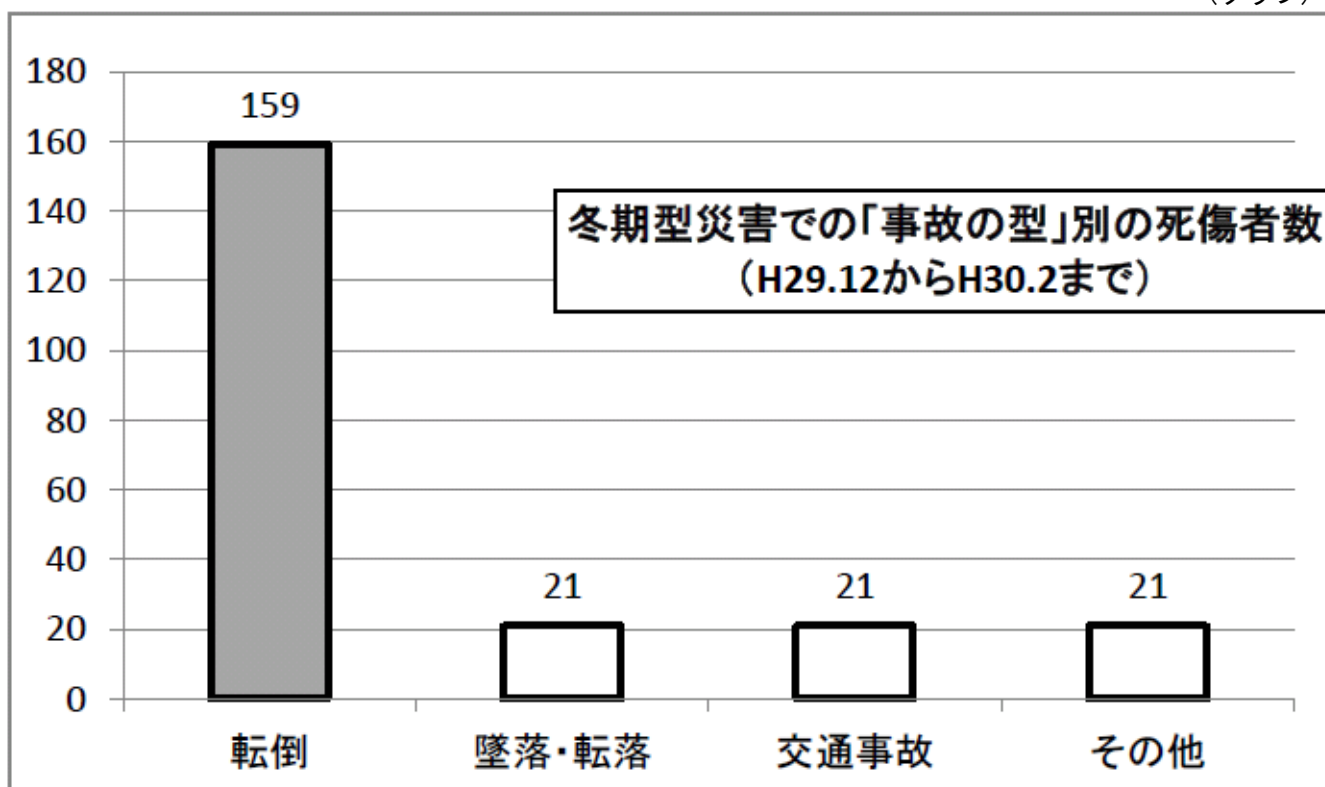
例年より降雪等が多く気温が低かった平成29年12月から平成30年2月までの3か月間の休業4日以上<sup>1</sup>の死傷者数は409人で、前年の同時期（平成28年12月から平成29年2月まで）と比べ72人増加している。

また、同時期（平成29年12月から平成30年2月）での冬期型災害は222人で、前年の同時期と比べ108人多く大幅な増加となっている。

平成29年12月から平成30年2月までに発生した冬期型災害による死傷者222人について、「事故の型」などの分析をした結果は、以下のとおりとなっている。

- ① 事故の型別では、「転倒」が159人（71.5%）と最も多く、次いで「墜落・転落」・「交通事故」が各々21人（9.5%）となっている。（下のグラフ参照）
- ② 転倒災害（159人）では、転倒の際とつさに手で受け身を取ろうとした時に路面に手をつき、手首を負傷したものが最も多く17.6%、足がもつれたことによる足首の負傷が13.2%、転倒の際に頭部の負傷したものが11.9%、膝部の負傷が8.8%、手指の負傷・足指の負傷が各々5.7%となっている。
- ③ 時間帯別では、朝の通勤時間帯となる7時台から9時台での発生が37.8%を占め、特に8時台の発生が最も多く15.3%となっている。また、気温が上昇する前の午前中に全体の71.0%が発生している。
- ④ 年代別では、50代以上が67.6%を占めている。（50代が28.4%、60代が32.9%、70代が6.3%）

（グラフ）



資料1 平成30年度「冬の労災をなくそう運動」実施要領

資料2 リーフレット